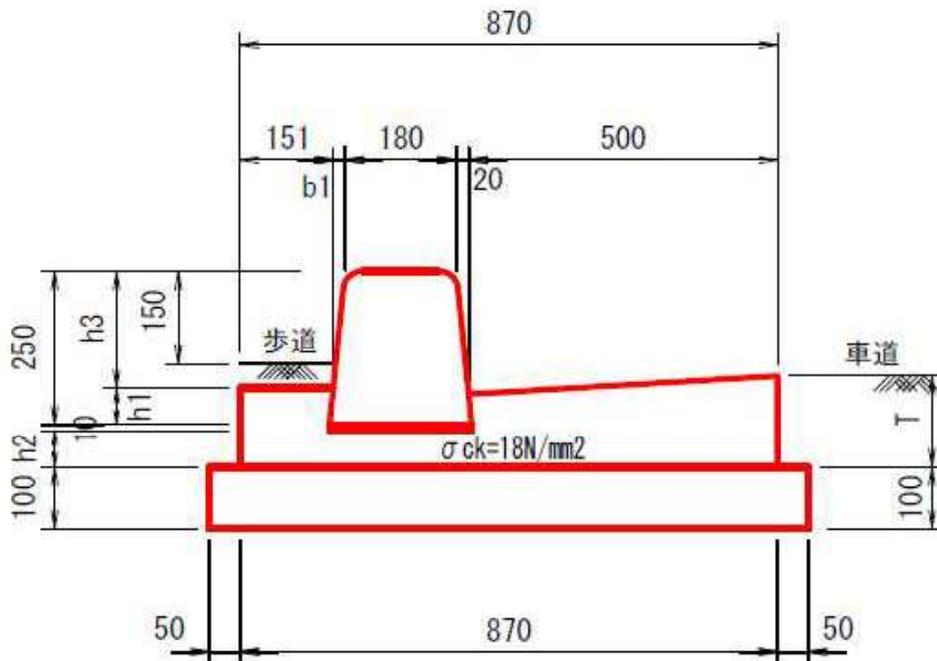


# 道路施設 標準図集

令和元年 7 月

神奈川県県土整備局道路部道路管理課

# 1 組合せL型側溝（セミフラットタイプ）



h1=60mmの場合

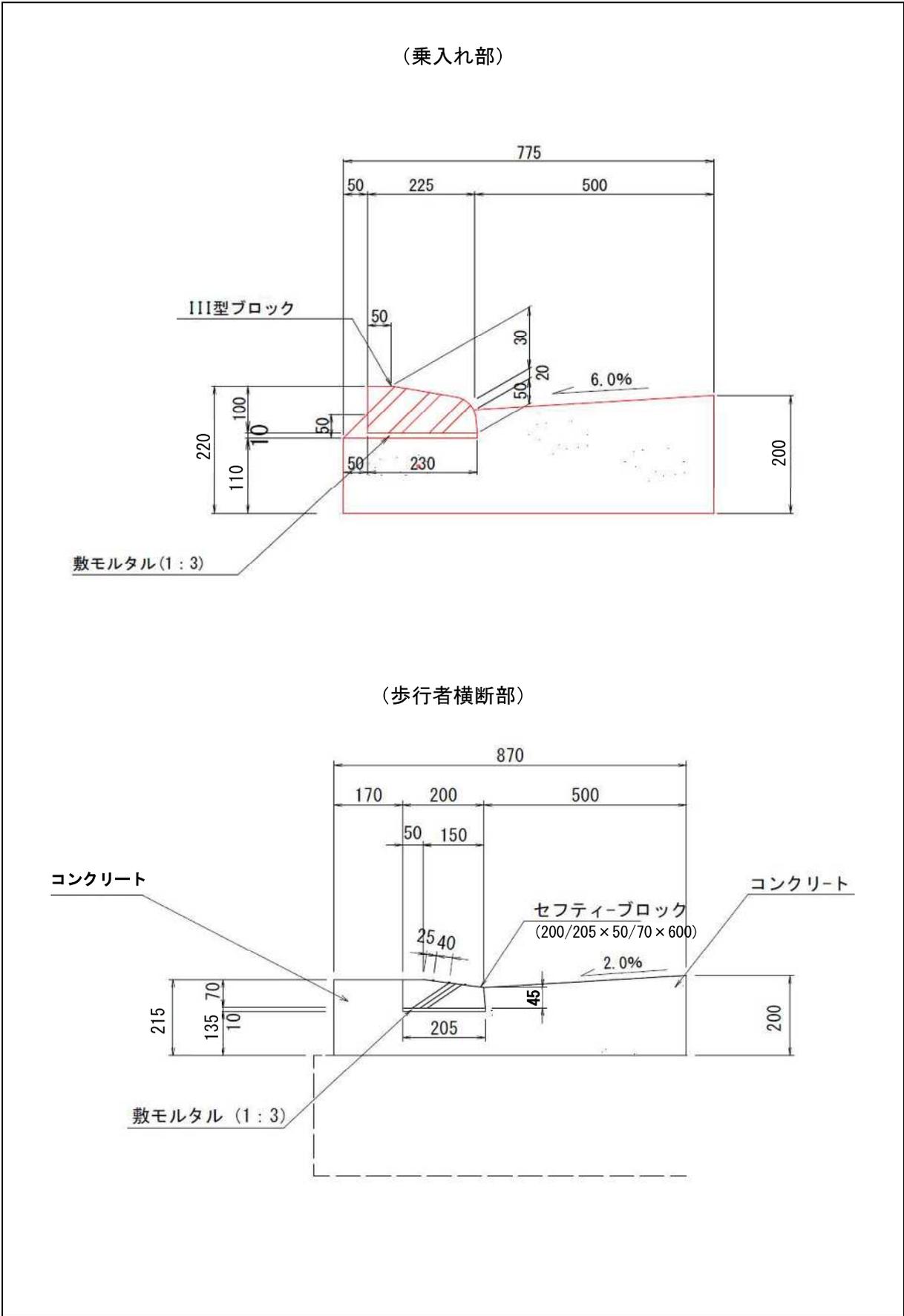
記号	寸法表 (mm)					
	h1	h2	h3	b1	T	L
PL2-B500-H150-T150	60	60	190	19	150	600
PL2-B500-H150-T200	60	110	190	19	200	600
PL2-B500-H150-T250	60	160	190	19	250	600

## <注意事項>

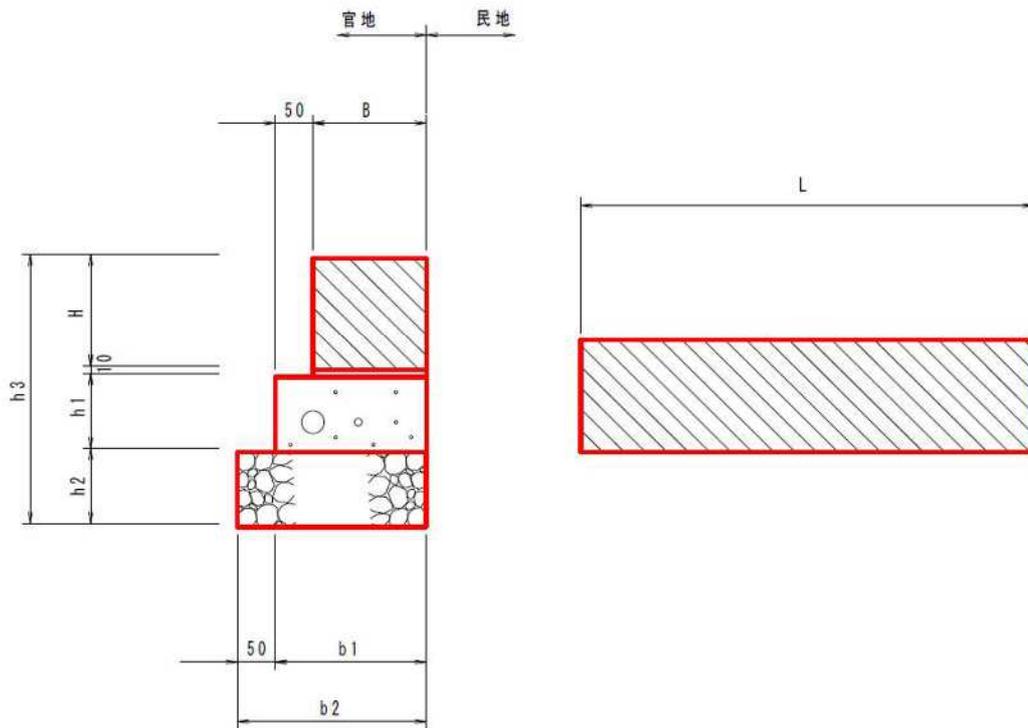
- (1)歩車道境界ブロックは原則としてB種とする
- (2)エプロンの横断勾配は6%を標準とする。ただし、エプロン厚については、交通量によって使い分けること。(t=150mm : N1~N5区分、t=200mm : N6区分、t=250mm : N7区分)
- (3)歩車道境界ブロックの背面コンクリートの高さ (h1) については、60mmを標準とするが、道路の利用状況を考慮し、歩車道境界ブロックが欠落しない範囲（標準設計に準拠し50mmは確保する）で調整しても良い。



### 3 組合せL型側溝



## 4 地先境界ブロック

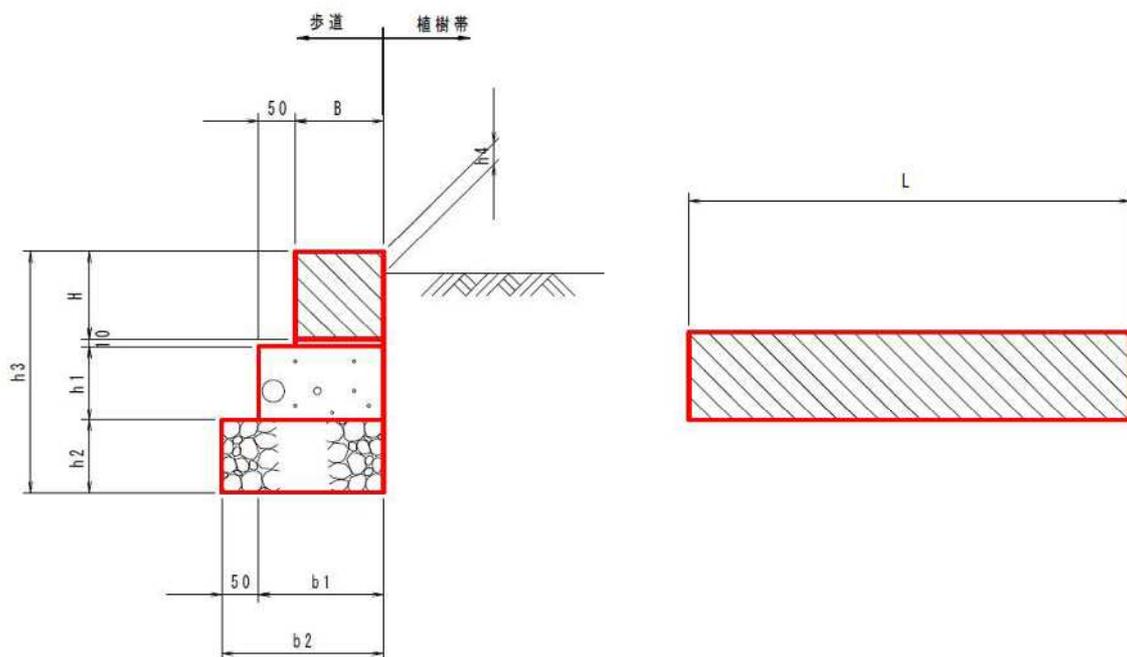


記号	寸法表								摘要
	B	H	L	h1	h2	h3	b1	b2	
K1-B150-H150	150	150	600	100	100	360	200	250	標準・切下げ(普通車)
K1-B150-H150	150	150	600	200	200	560	250	300	切り下げ(大型車)

### < 注意事項 >

- (1) 地先境界ブロックはJIS A 5371を使用する。
- (2) 基礎材の使用材料は実施に当り明記すること。

## 5 植樹ブロック

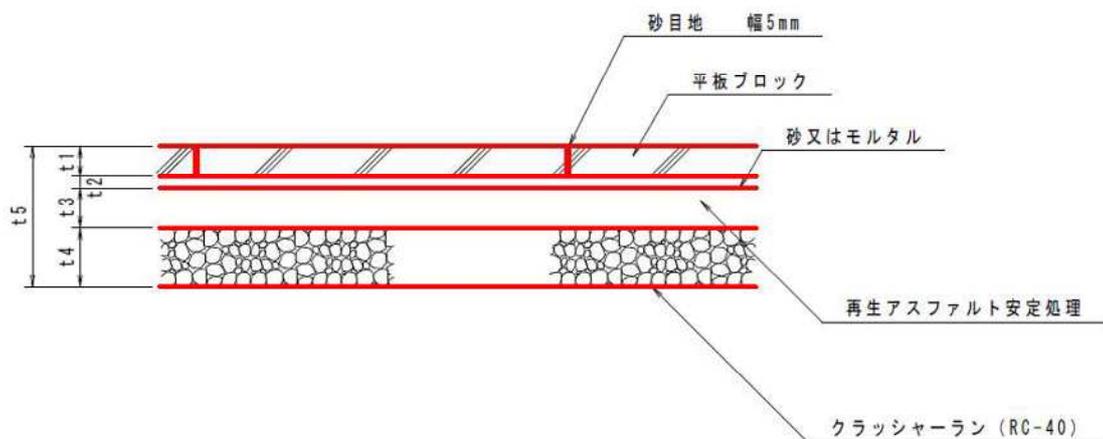


記号	寸法表 (m)								
	B	H	L	h1	h2	h3	h4	b1	b2
K2-B120-H120	120	120	600	100	100	330	30	170	220
	120	120	600	100	100	330	100	170	220

### <注意事項>

- (1) 基礎材の使用材料は実施に当り明記すること。
- (2) 植樹ブロックと客土の差は、植栽前10cm程度、植栽後3cmとする。

## 6 歩道—平板ブロック



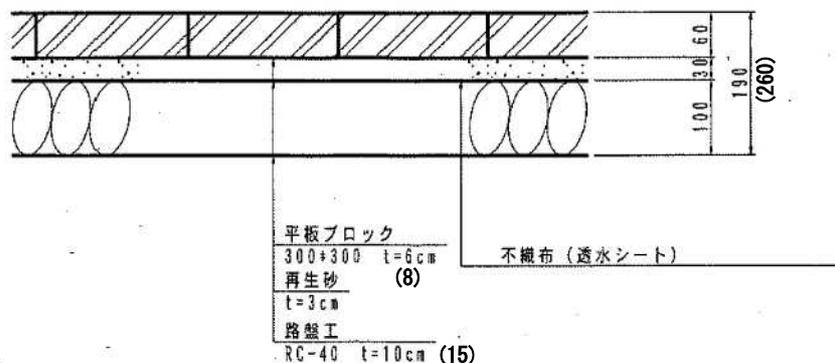
記号	寸法表 (m)				
	t1	t2	t3	t4	t5
HB1-T60-①	60	30	-	100	190
HB1-T60-②	60	30	-	100	190
HB1-T80-③	80	30	-	150	260
HB1-T80-④	80	30	100	150	360

- ①標準部
- ②擦り付け区間
- ③切下げ部(普通車)
- ④切下げ部(大型車)

### <注意事項>

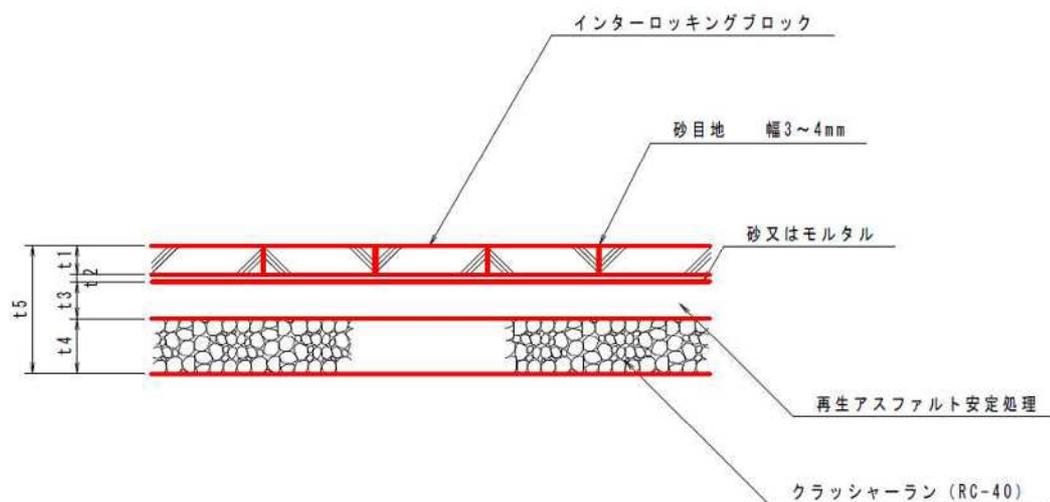
- (1) ブロック下は原則として砂を用いるが、切下げ部(大型車)についてはモルタルとする。
- (2) 地域特性により砂をモルタルに変えることが出来る。
- (3) 路盤材料は再生材の使用を原則とする。

### 【国道467号 電線地中化工事区間歩道部】



※ ( )内は乗入れ部

## 7 歩道—インターロッキングブロック



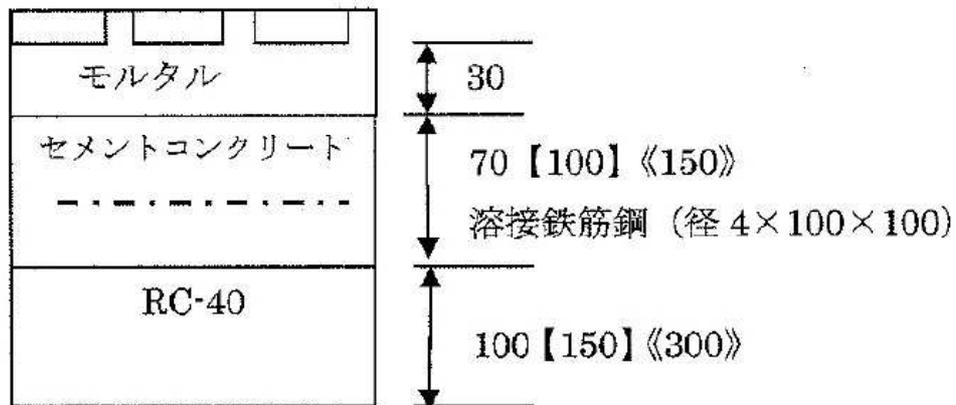
記号	寸法表 (m)				
	t1	t2	t3	t4	t5
ILB-T60-①	60	30	-	100	190
ILB-T60-②	60	30	-	100	190
ILB-T80-②	80	20	-	150	250
ILB-T80-④	80	20	100	150	350

- ①標準部
- ②擦り付け区間
- ③切下げ部(普通車)
- ④切下げ部(大型車)

### <注意事項>

- (1) ブロック下は原則として砂を用いるが、切下げ部(大型車)についてはモルタルとする。
- (2) 地域特性により砂をモルタルに変えることが出来る。
- (3) 路盤材料は再生材の使用を原則とする。

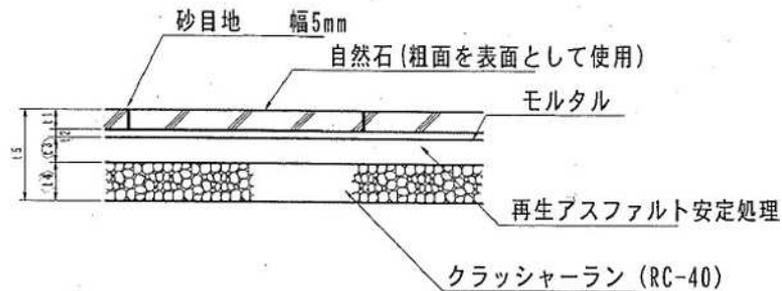
## 8 歩道—自然石、レンガ、タイル舗装



### <注意事項>

大型車の舗装構成の場合は、大型車を対象とする製品であるか確認し、必要に応じて、インターロッキングブロックの使用を検討する。

### 【県道21号（横浜鎌倉）若宮大路自然石歩道部（H24.3.1～）】

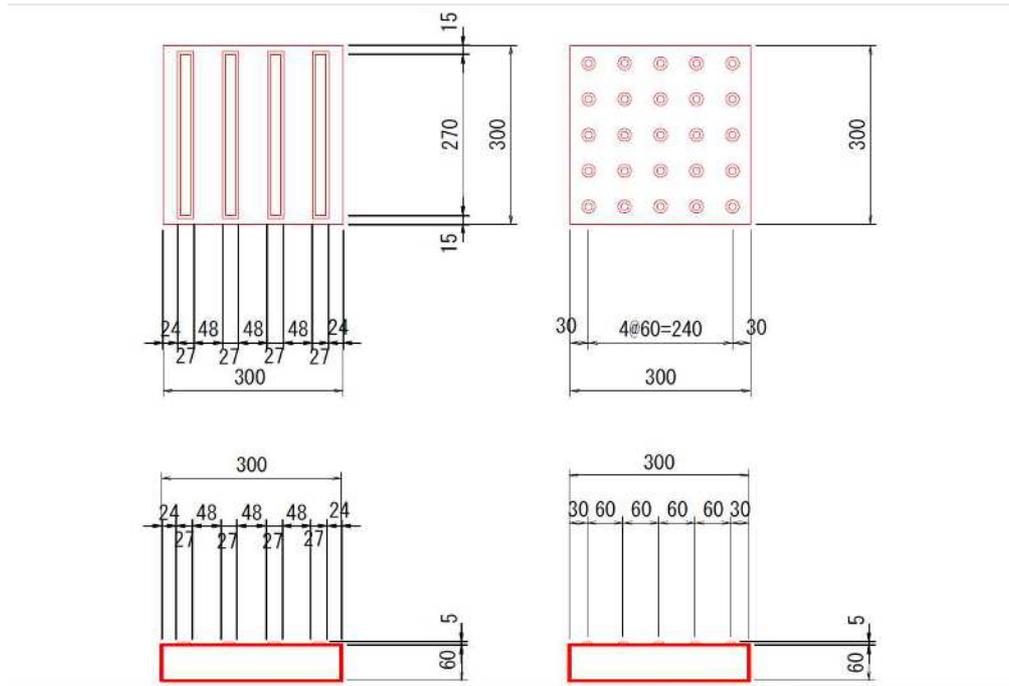
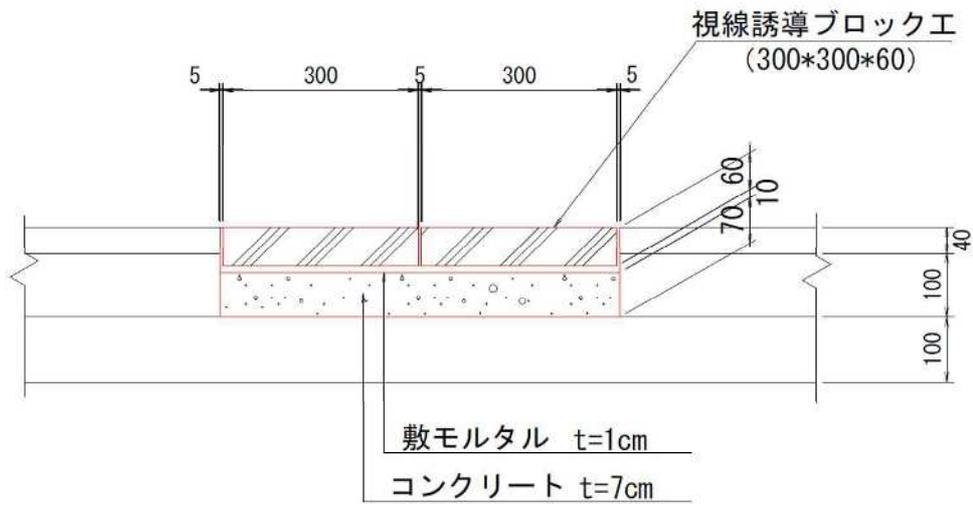


記号	寸法表 (mm)				
	t1	t2	t3	t4	t5
標準部	60	30	70	100	260
標準部から切下げ部へのすり付け区間	60	30	70	100	260
切下げ部 (普通車)	60	30	100	100	290
切下げ部 (大型車)	60	30	100	150	340

### <注意事項>

- (1) 原則として自然石の使用に努める。
- (2) 自然石の据付には、モルタルを使用する。
- (3) 雨天時等の歩行者のすべり・転倒を防止するため、自然石の粗面を表面に使用する。
- (4) t3、t4について、既設厚のほうが大きい場合は、現況と一致させる。

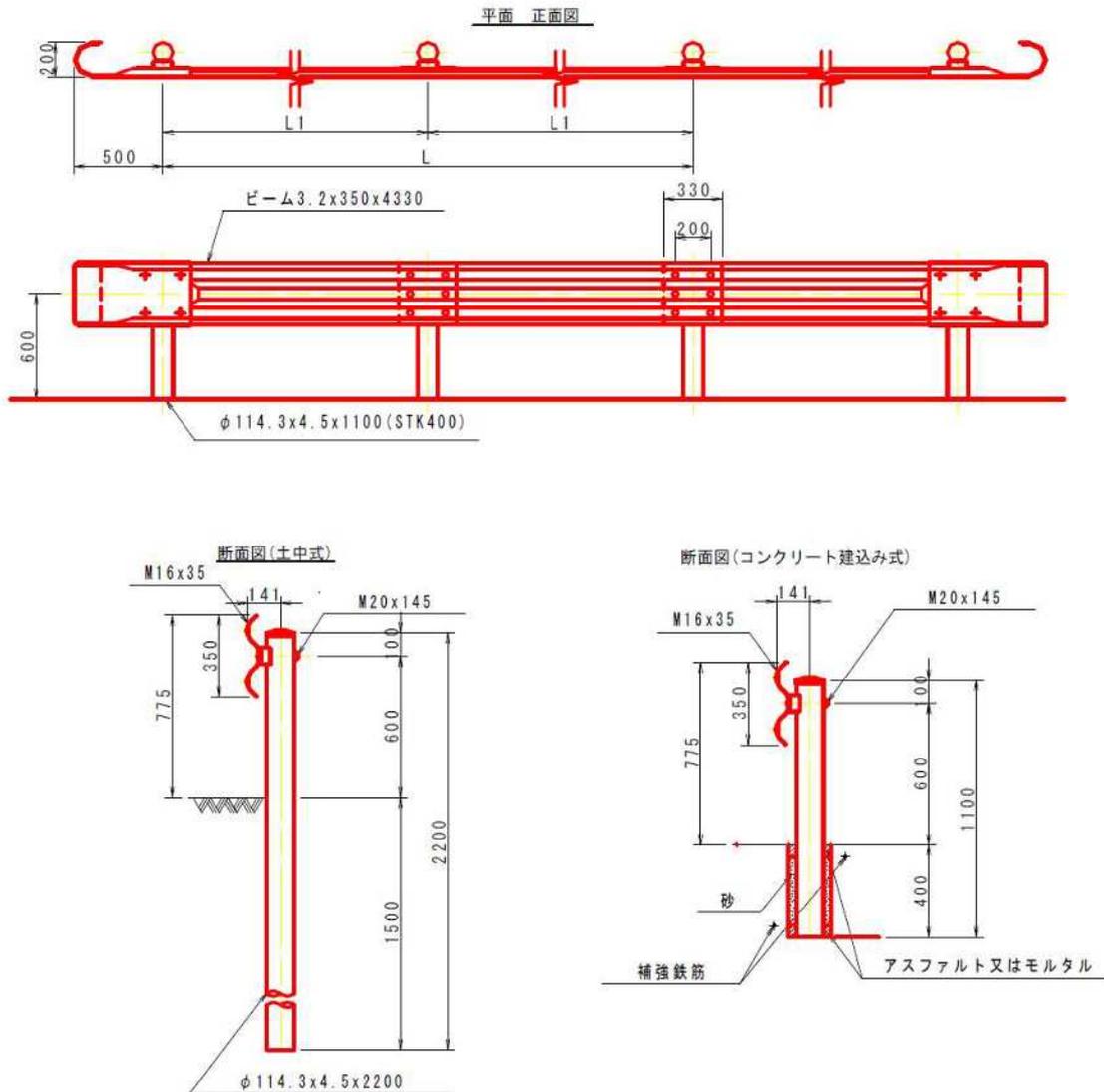
## 9 歩道－視覚障がい者誘導ブロック



### < 注意事項 >

- (1) 視覚障害者誘導用ブロックについては、「神奈川県 みんなのバリアフリー街づくり条例」に準拠すること。

# 10 ガードレール



記号	支柱間隔		ビーム 厚x幅x長さ	巻き袖ビーム 厚x幅x長さ	支柱 外径x厚x高さ
	L	L1			
Gr-B-4E	4000	-	3.2x350x4330	2.3x356x200	114.3x4.5x2200
Gr-B-2B	4000	2000	3.2x350x4330	2.3x356x200	114.3x4.5x1100

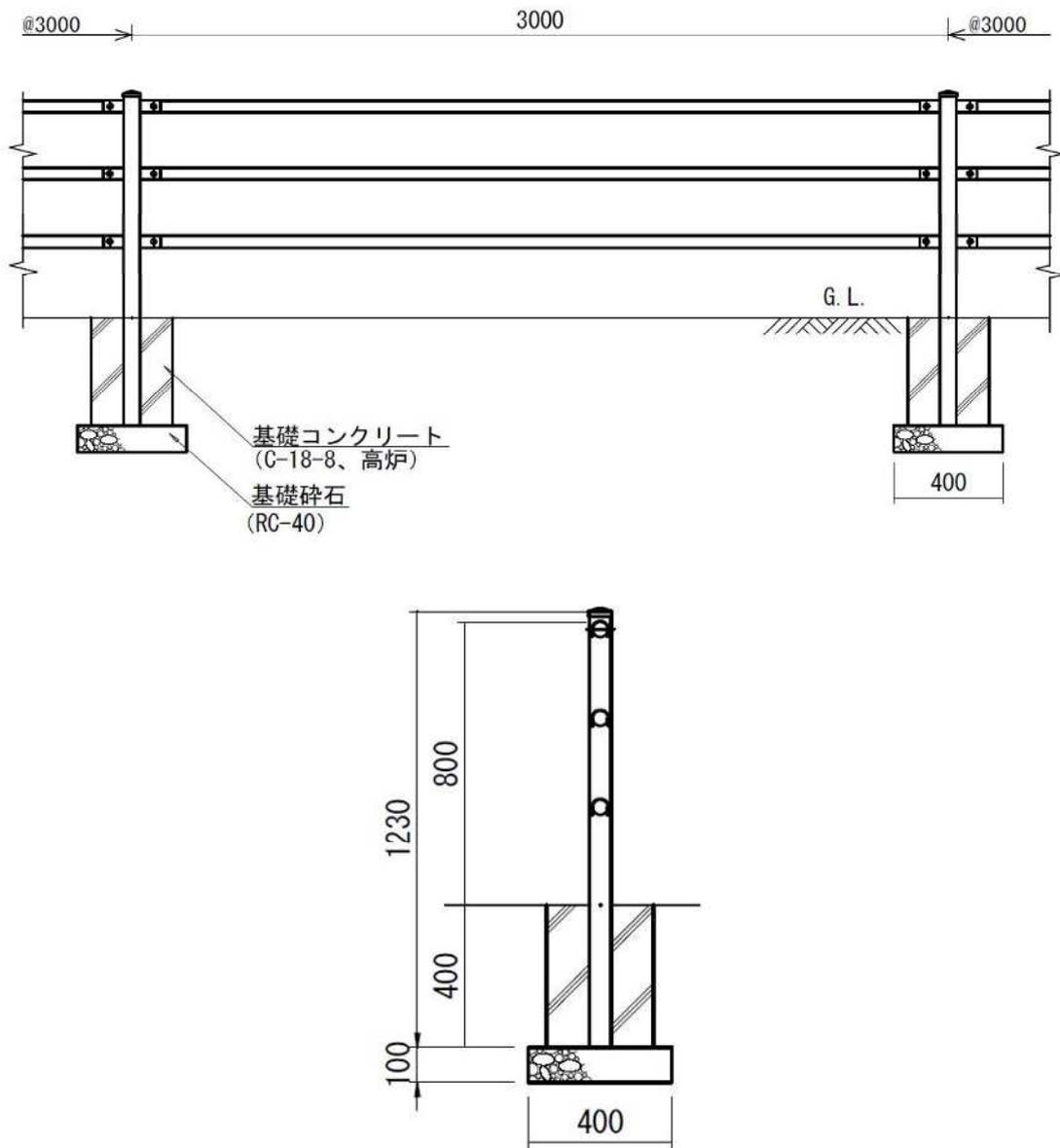
## <適用条件>

防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については「防護柵の設置基準 同解説 ((社)日本道路協会)」による。

## <注意事項>

- (1) コンクリート建込みの場合、構造物の当該部分が無筋コンクリートまたはそれに近い場合は補強鉄筋を配置する。また支柱と構造物の間隙には上下にアスファルトをシールし、中間部には砂を充填する。
- (2) ビーム中心高さは、路面からの高さをいう。ただし、縁石、アスカーブ等のある場合は、それらの上端からの高さをいう。

## 1 1 横断防止柵



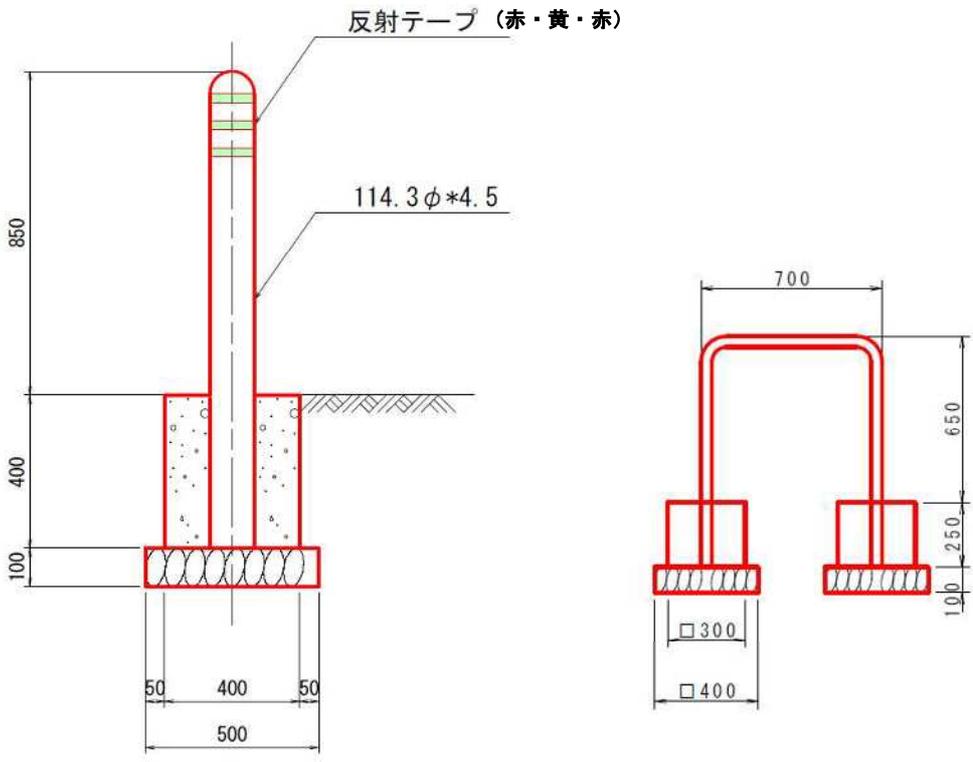
### <適用条件>

防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については「防護柵の設置基準 同解説（（社）日本道路協会）」による。

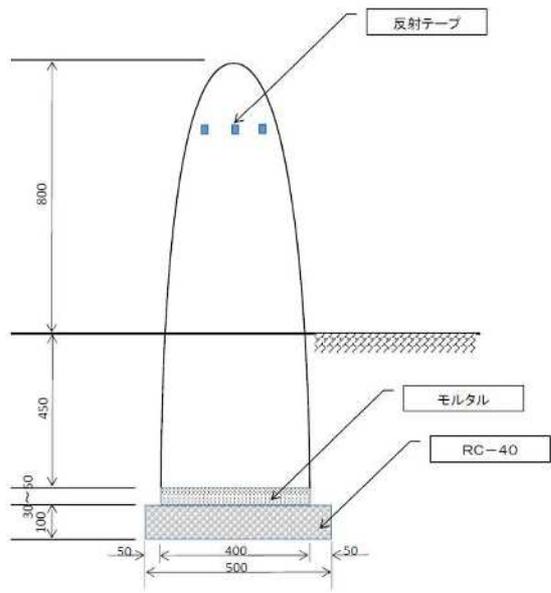
### <注意事項>

- (1) コンクリート建込みの場合、構造物の当該部分が無筋コンクリートまたはそれに近い場合は補強鉄筋を配置する。また支柱と構造物の間隙には上下にアスファルトをシールし、中間部には砂を充填する。
- (2) ビーム中心高さは、路面からの高さをいう。ただし、縁石、アスカープ等のある場合は、それらの上端からの高さをいう。

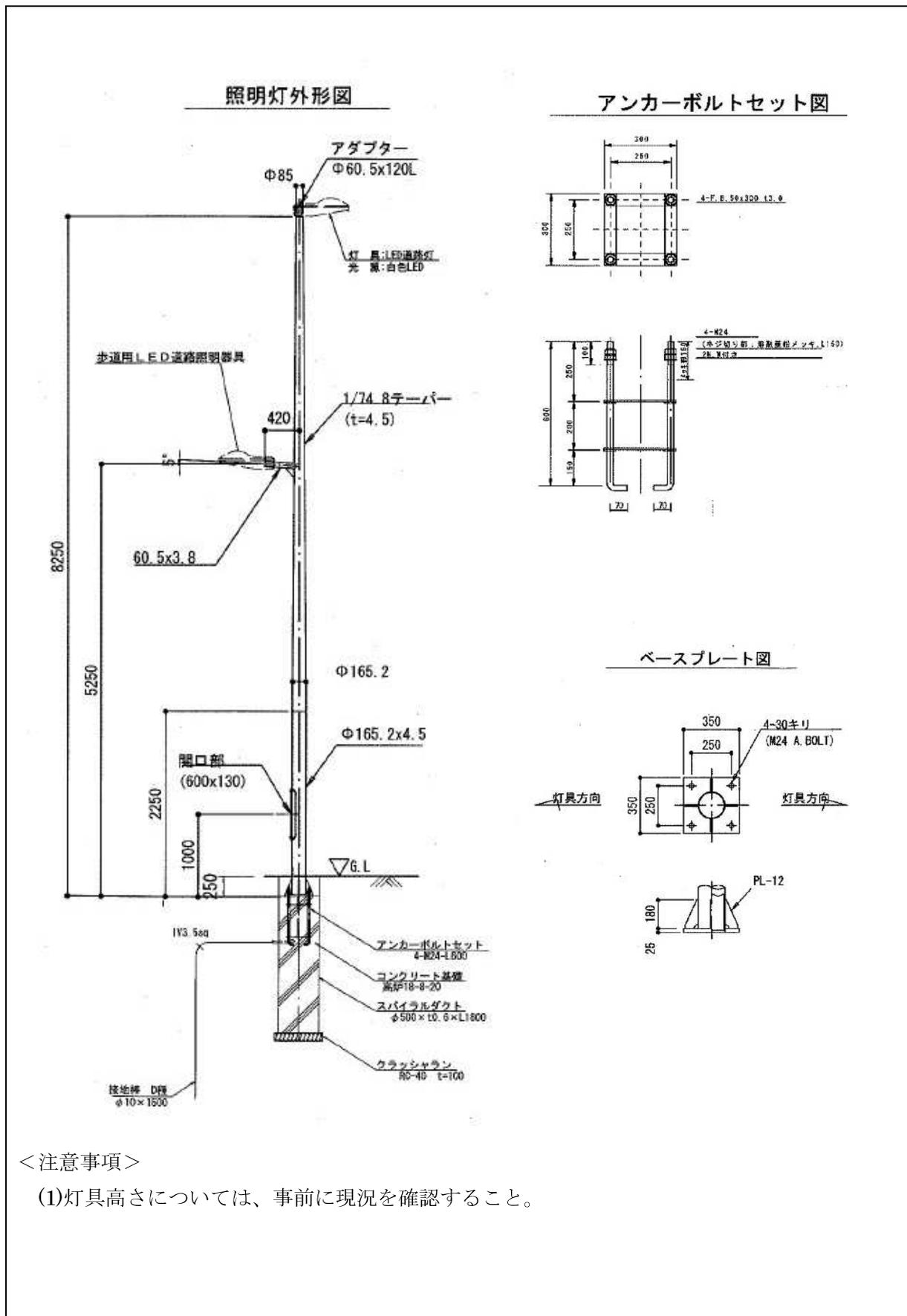
1 2 車止め



(国道134号片瀬地内)

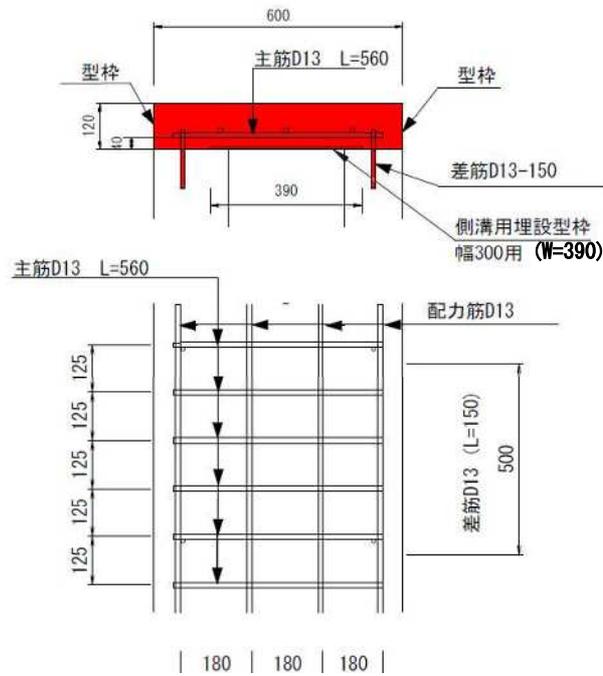


# 1 3 道路照明灯



# 1 4 側溝 (床版化)

## (一般部)



## (乗入れ部)

